

い男の一人も置いたら廻つて行ける、又お客さんがつかへて来たら吉野さんにも持はこびを』『何を  
おつしやる事やら、昨日今日まで勤めをした者が、うどんのお給仕が』『イエお父上さん、今までの  
勤めのことを思へば、  
うどんのお給仕位いな  
んでもないことで』『ソ  
レ見なされ、今の若い  
者の方が中々勉強家ぢ  
や、しかし資本金は吉  
野さんが持て来たのや  
から、總てを吉野とし  
よか』と暖簾行燈、は  
つび出前箱に到るまで  
吉野として誂へました  
其のうち普請も出来  
上りまして、吉日を選



び開店いたしました、出せば買ふの世の中、開店早々大繁昌、お客が押かけます『うどん一膳お  
呉れ』『へい一ツせん……』『オ、来た、早いナア、早いが御馳走や、中々だしがゑいな』『オ  
イ小田卷一ツせんお呉れ』『きや一ツせん、ア、一寸待つとなはれ、間違ひましたアノ小田卷とい  
うたら巻だんなア、アノきやが巻にかわつて』中には間違ふのが面白いといふて喰ひに来る人がある  
又外にはもう一せん、いふたらあの別嬪が持て来るか知らんちうて、うどんの鉢を十五六杯も積んで  
る御客もあります、日増に繁昌して居ます。光險矢の如し、月日に關守なく、こゝに三ヶ年の星霜を  
経ました。島三郎は以前を忘れぬ様に、矢張り法被姿で出前を持って行く途中、以前遊びに行つて居た  
お茶屋のお女將<sup>かみ</sup>さんにべつたり出會ひました『ア、そこへお出になるのは、島坊んやおまへんか、チ  
ヨツト島坊ん』『お、あねきか』『マア島坊ん、御機嫌さん、永い事逢いまへんな、マアお達者で、  
此間だ竹内さんに逢いまして、あなたの事もお尋ねしましたら、どこやらへ御養子に行つて御座ると言  
ふことやけども、お所が分らんといふてはりました、おかわりがなうて結構でおますな』『いつから  
逢わんねんな』『それ大和巡りして歸つてから逢ひまへんのだす』『そや、面白かつたな』『早  
いもんだんな、もう三年になりますつせ、それ奈良の元林院で流連の時に、毎日、雪に降られて仕  
方がないので、野施行に行きましたな』『そう、狐の面を被つて、白のシャツとパツチで』『赤飯  
の握り飯と油揚げを持つて』『寒むかつたな』『さう、あんまり寒いので、みんなそこへ一しよ